

兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院のあり方検討委員会報告書概要版（案）

I 現状と課題

1 阪神南及び阪神北医療圏域

(1) 医療機関と医療機能（参考1）

ア 両圏域では、5疾病5事業のうち3次救急、小児、周産期については、阪神南・北を併せて一つの圏域(※)を構成している。

(※小児、周産期は、三田市は神戸市とで一つの圏域を形成)

イ 高度専門医療を担う病院が阪神南圏域に集中しており、兵庫県保健医療計画においても3次救急は南北を一体とした圏域が設定されているため、兵庫県地域医療構想を踏まえ両圏域全体をカバーできる医療提供体制と連携のあり方を考える必要がある。

ウ 高度急性期入院患者は、阪神南圏域では約80%が圏域内で完結し、約9%が兵庫県外へ移動している一方で、阪神北圏域の圏域内完結率は52.5%と低く、県外と阪神南圏域へそれぞれ約20%ずつ移動している。

エ 西宮市では周産期及び小児入院患者の圏域外への移動割合が高く、晩婚化の影響による高齢出産や各種合併症妊娠等のハイリスク出産が増加傾向にある中で、産科・小児科の医療提供体制のあり方を考える必要がある。

(2) 将来の医療需要（参考2）

ア 両圏域とも、将来は総人口が減少する中でも入院患者数は増加し、特に循環器系、呼吸器系疾患は顕著に増加する見込みであることから、対策が必要である。

イ 今後ますます75歳以上の高齢者の人口割合が高まるため、救急対応（特に2次、3次救急）も含めた医療提供のあり方を考える必要がある。

(3) 都市部における公立病院のあり方（参考3）

全国の政令市・中核市に比べると、市立中央病院は病床規模が小さく、また市内には500床以上の大規模病院が1施設しかないため、都市部において地域医療を守っていくに当たり、経営の安定性を確保するのに適切な病床規模などを考慮する必要がある。

また、西宮市は、人口が集まりやすい条件・機能を持っており、今後も県内の他地域等からの人口流入が想定され、市民に対する医療提供に加え、他地域の県民の期待に応えることも考慮する必要がある。

2 兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院

(1) 歴史・役割

県立西宮病院は、災害・救急医療や腎移植等で重要な役割を果たしてきたが、今後も高度専門医療の提供など、医療機能の充実に努め、地域の医療ニーズに的確に対応する必要がある。また、先進医療への取組については、腎移植医療等の更なる推進を図っており、今後も大学における高度な研究機能とも連携し、将来の医療技術の進展に対応していく必要がある。

市立中央病院は、地域に密着した医療機関として、がん診療における高度医療の提供と、2次救急医療への対応をさらに積極的に行っていくこと、また、将来的に増加が見込まれる呼吸器系疾患、循環器系疾患への対応強化や、災害時の医療提供を中心的に担うための体制作りが求められる。

(2) 施設・設備及び防災機能

県立西宮病院の本館は築後年数が比較的浅いため、今後も有効活用する必要がある一方、病院敷地が狭く拡張性に乏しいため、医療環境の変化などへの対応が困難である。また、救命救急センター等が地下にあるため、豪雨時等に浸水の可能性があることと、ヘリポートの設置が課題である。

市立中央病院は、築後40年を経過しており、老朽化対策及び耐震化が喫緊の課題である。

(平成29年度に耐震補強工事を実施予定)

(3) 経営状況（参考4）

両病院で、在院日数が短縮されている反面、延入院患者数が減少しており、病床の有効活用が課題である。

特に市立中央病院では病床利用率が70%未満と低く、億単位の赤字が毎年度発生しており、経営改善の取組が不可欠である。

(4) 医療提供体制（参考5）

ア 診療科

両病院とも急性期・総合型病院として不足している診療科（県：心臓血管外科等、市：脳神経外科等）があり、今後の疾患構造の変化を見据え、合併症等に対応できる診療体制を整える必要がある。

イ 救急・手術への対応

県立西宮病院では、救命救急センターの機関指定を受けているが、心臓血管外科が未設置で胸痛の救急患者等を受け入れられないため、体制整備が必要である。

市立中央病院は、医師不足により必要な診療機能が一部不足しており、体制の充実が必要である。

ウ 医療従事者

両病院で、主要な診療科については一定の医師確保ができていますが、市立中央病院では一部の診療科で常勤医が1名ないしは非常勤医などで対応しており、十分な診療機能を発揮できていない。また、今後の新専門医制度に対応し、研修医・若手医師の確保に努めていく必要がある。

Ⅱ 両病院の今後のあり方

1 具体的検討内容

両圏域及び両病院の現状と課題を踏まえ、以下のとおり両病院のあり方について4つの選択肢を設定し、メリット・デメリット等の検討を行った。

区分	今後のあり方	メリット	デメリット・課題
統合再編	案1 両病院を統合し、新用地に新病院を整備	○診療体制や施設・設備の充実等により、勤務環境の魅力が向上し、医療従事者が集積 ○両病院の課題に即時的に対応	○新病院整備費の財源捻出 ○県立西宮病院（本館）の有効活用が必要 ○適切な新病院整備地の選定
	案2 市立中央病院の機能を県立西宮病院に集約した統合新病院を設置 ※県立西宮病院は増築・改修工事を実施	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【案1、案2共通】</p> <p>○総合的な診療機能を生かした高度専門・特殊医療の提供が可能 ○高齢化に伴う救急の増加等、将来の地域の医療ニーズに対応できる医療機能を確保でき、医療環境の向上に大きく貢献 ○両病院を存続させる場合と比較し、県市トータルでの運営コストが安い</p> </div> <p>○県立西宮病院（本館）の有効活用が可能</p>	○機能集約にかかる増改築と近い将来の建替が必要で、長期的に高コスト ○当面の間、防災面や診療機能での課題が残る ○県立西宮病院は、敷地が狭隘で増築にも限界あり、必要な機能の全てを集約できるのか懸念 ○増改築工事期間中に診療機能が制限 ○医療従事者にとって、勤務環境の大幅な魅力の向上にはつながらない
経営統合	案3 両病院は経営を統合した上で存続（並存）し、機能分担と連携を実施 【案3、案4共通】 ※市立中央病院は老朽化対策による長寿命化を実施	○両病院の診療機能を抜本的に見直し役割分担と連携を図ることで、地域の医療ニーズに一定対応 (高度急性期病院と回復期病院など) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【案3、案4共通】</p> <p>○県立西宮病院（本館）の有効活用が可能 ○両病院で実施している診療機能の集約による効率化 (産科・脳神経外科・呼吸器内科等)</p> </div>	○両病院の運営にかかる費用、投資がかさみ、経営面で非効率 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">【案3、案4共通】</p> <p>○現在の課題に対して即時的な対応が困難 ○医療従事者にとって、勤務環境の魅力の向上につなぐりにくい ○市立中央病院の長寿命化には限界</p> </div>
連携	案4 両病院は診療機能の見直しを行った上で、存続（並存）し、役割分担と連携を一層推進	○県立西宮病院（本館）の有効活用が可能 ○両病院で実施している診療機能の集約による効率化 (産科・脳神経外科・呼吸器内科等)	○今後も中規模病院は、経営や医師確保の面で大規模病院と比べて不利な状況が続く見込

2 検討結果

本委員会では、両病院の統合再編も選択肢の一つとして検討を重ねてきたが、以下の理由から、案1の「両病院を統合し、新用地に新病院を整備する」ことが最も望ましい、との結論を得た。

- 案3及び案4は、メリットに乏しく、両病院の課題（防災機能や建物の老朽化対策、診療機能の確保等）に即時的な対応ができないことや安定的な医療提供体制の構築にはつながらない等のデメリットがあり、案1及び案2と比較して劣る。
- 案2は、一定のメリットがあるものの、拡張性の乏しい県立西宮病院で大規模改修や増築等を行うことは現実的には困難な上、実施に当たり長期間の診療機能の制限が必要となる。また、両病院の機能を集約し、必要な機能の全てを県立西宮病院に付加できるか不透明で、医療従事者の確保などの点でも案1に劣る。
- 案1は、診療機能の充実や医療従事者の確保等、病院として最も重要と考えられる項目においてメリットがあり、課題の多くは、今後、県市において調整を行うことで、課題解決を図ることが可能な事項であることから、4つの案の中で最も優れている。

3 留意事項

今後、両病院の統合（案1）を実現していくに当たっては、以下の点に留意すること。

- 経営主体・形態、費用の負担方法、跡地利用等、統合再編を進めるに当たっての課題解決について、兵庫県と西宮市において調整を図っていくこと。
- 『兵庫県地域医療構想』を踏まえるとともに、将来の治療方法や患者意識の変化についても意識すること。
- 新専門医制度において、できるだけ多くの領域の基幹施設として研修プログラムを提供するなど、若手医師育成の基幹病院を目指すとともに、医療従事者に対する育成・研修機能の充実を図ること。
- 県立西宮病院の特色である先進医療への取組を引き継ぎ、再生医療等の分野においても、臨床研究・治療を実施するなど、先進医療に対応できる病院を目指すこと。
- 統合再編新病院は、両病院が地域で果たしてきた役割を引き継ぐとともに、民間医療機関との役割分担と連携を強化し、地域全体の医療の質の向上に資すること。また、統合再編を進めるに当たり地元医療機関や住民の理解が得られるよう努めること。
- 両圏域の救命救急医療については、尼崎総合医療センター、兵庫医科大学病院との役割分担等を踏まえ、統合再編新病院に必要な機能等を検討すること。
- 統合再編新病院は、阪神北圏域の2次救急医療機関等との役割分担と連携を十分に考慮し、公立病院の役割を果たすとともに、阪神北圏域の公立・公的病院等が兵庫県地域医療構想に基づき行う検討とも十分に調整を図っていくこと。
- 両圏域の3次救急医療の充実を図るためには、統合再編新病院の機能充実はもとより、道路整備等患者搬送アクセスの拡充が望まれること。